

# 2015年4月 定期報告と次月度以降の活動予定

## 活動日誌

4月	4日	いわき市四倉仮設住宅お茶会
	6日	くらし部会
	7日	常務理事会
	9日	栃木放送番組審議会
	10日	宇都宮大学高橋准教授訪問
	14日	財政検討委員会・定例理事会・見守り協定調印式
	15日	くらし安全安心課消費生活センター訪問
	16日	とちぎ食の安全ネットワーク世話人会
	17日	大嶋氏(元消団連事務局長)打合せ
	18日	山梨県消費者シンポジウム「STOP 泣き寝入り」
	19日	サポートネット理事会
	20日	服部弁護士打合せ
	21日	ふれあいお茶会・
	22日	栃木県労働者福祉センター理事会・作新大学春日教授訪問
5月	1日	消費者月間啓発チラシ配布(JR 宇都宮駅)
	7日	常務理事会
	11日	食肉センター整備検討協議会理事会・総会
	13日	カレッジ「国際医療大学」
	14日	風見総会・栃木放送番組審議会・小山市防災会議
	15日	消費者の集い
	16日	いわき市四倉仮設住宅お茶会
	17日	マイフェスタmy宇都宮
	18日	適格消費者団体研究会
	19日	ふれあいお茶会・県連監査・中央労金打合せ
	20日	宇都宮大学生協総代会
	21日	とちぎ食の安全ネットワーク(全体会)・地産地消県民運動実行委員会
	22日	元気な森づくり総会・足利工業大学生協総代会
	25日	第9回「組合員理事・組織担当職員学習会」
28日	農協連生協総代会・プリアストン生協総代会	
29日	定例理事会・栃木県労働者福祉センター総会・栃木県労働者福祉協議会総会	
30日	栃木労働福祉事業団総会	
6月	1日	JA栃木中央会「TPPを考えるフォーラム」・くらし部会
	2日	とちぎ消費者ネットワーク幹事会
	4日	宇都宮市職員生協総代会
	9日	常務理事会
	11日	とちぎ食の安全ネットワーク世話人会
	12日	日本生協連総会
	13日	よつ葉生協総代会
	14日	母親大会
	15日	マーケティング協会打合せ
	16日	ふれあいお茶会・とちぎコープ総代会
	17日	バルシステム茨城総代会
	18日	生活クラブ生協総代会・学校生協総代会
	19日	バルシステム群馬総代会
	22日	第10回「組合員理事・組織担当職員学習会」・県職員生協総代会
26日	第46回通常総会	
28日	医療生協総代会	
30日	マーケティング協会総会・とちぎ消費者ネットワーク幹事会	

## 県連活動

### 1. 機関運営

4月7日第7回常務理事会が開催されました。議案は、活動報告・2015年度計画・総会計画・財政検討委員会議案・県見守り協定締結などについて話し合い、理事会付議議案について確認しました。

4月14日第6回理事会(14名参加)開催されました。2014年度のまとめと次年度方針・会費規程の改定などについて承認しました。合わせて、次年度の課題や県見守り協定締結などについて承認されました。また、財政検討委員会の答申がありました。答申をもとに会費について提案し5月理事会で決定することとしました。

### 2. 暮らし部会 (地域生協組合員理事による部会活動)

4月6日第1回定例会議が開催されました。会員の年度の振り返りを交流し、暮らし部会の2014年度振り返りと2015年度の計画について話し合いました。2015年度の計画では、学習会の実施、行政他団体との協働活動(消費者月間・フェスタ my 宇都宮・うつのみや食育フェア・もったいないフェア宇都宮・ECO テック&ライフとちぎ・食と農をつなげる会・消費生活講演会)の取組み参加、県暮らし安全安心課との意見交換会、とちぎ食の安全ネットワーク及びとちぎ消費者ネットワークへの参加、東日本大震災福島第一原発避難者支援の継続(いわき市四倉仮設住宅お茶会・ふれあいお茶会)など、前年を踏襲する形で活動する予定です。尚、介護保険の改定に伴う新しい地域支援事業に関わる行政訪問活動は継続討議としました。

### 3. 『組合員理事・組織活動担当職員学習会』の開催

4月27日、第八回が終了しました。「いごちの良い場のあり方・つくり方」について至誠キートスホーム施設長大村洋永氏にご講演をいただきました。分散会では、感じたことやこれからの活動で私たちが大切にしていける事などについて話し合われました。

	日	テーマ	講師	参加
1	9/22	「協同組合思想とその歴史」	栃木県生活協同組合連合会 竹内会長理事	36人
2	10/27	「今なぜJA改革なのか」	宇都宮大学 農学部 農業経済学科 秋山満教授	35人
3	12/1	「共有を深めるワークショップを学ぶ」	宇都宮大学 教育学部 陣内雄次教授	39人
4	12/15	「昨今の消費者問題と消費者市民社会の意義」	横浜国立大学 教育人間科学部 西村隆男教授	64人
5	1/20	「山谷の現状からみえてきた事 地域住民による生活困窮者の支援」	NPO 法人自立センターふるさとの会 滝脇憲 常務理事	40人
6	2/23	「くらしから考える生協の活動」	教育アドバイザー毛利 敬典氏	35人
7	3/16	「栃木県という地域が抱える様々な問題について」	NPO 法人宇都宮まちづくり市民工房理事 安藤正知氏	29人
8	4/27	「いごちの良い場のあり方・つくり方」	至誠キートスホーム施設長 大村洋永氏	34人
9	5/25	「日本経済(アベノミクス)と日々の暮らしの関係について」	高崎経済大学経済学部 矢野修一教授	
10	6/22	「私たちが考える生協の役割について」	参加者全員ワークショップ	

### 4. 適格消費者団体の調査

山梨県において弁護士や司法書士、消費者団体(生協連含む)の関係者らが4月18日、消費者トラブルの被害者に代わって違法業者に差し止め請求訴訟を起こすことを目的に、NPO法人「やまなし消費者支援ネット」が設立され、記念して行われた山梨消費者シンポジウムに調査のため参加してきました。適格消費者団体の設立を目指すネットワーク団体の設立の経緯や被害の実情など、大変参考になりました。今後、栃木県での取り組みについて検討をしていきます。

## ネットワーク活動

### 1. とちぎ食の安全ネットワーク

4月16日、第1回世話人会が開催されました。県生活衛生課から「第14回とちぎ食品安全フォーラム」などを主体とした「平成27年度食品の安全性に係るリスクコミュニケーション事業計画(案)」について提案があり、第14回とちぎ食品安全フォーラムを県央で開催し、食品安全セミナー①は小山市の開催とすること、食品安全セミナー②は県央で開催するなど、協同して開催することを決めました。また、2014年度の

会員振り返りを交流し、ネットワーク自体の 2014 年度の振り返りと 2015 年度の計画について話し合いました。2015 年度の計画では、協働活動を前述のように決め、全体会を使った学習会、工場見学、社会的発信(パブコメなど)を積極的に発信などが決まりました。尚、世話人の改選期ですが継続しての任期となりました。

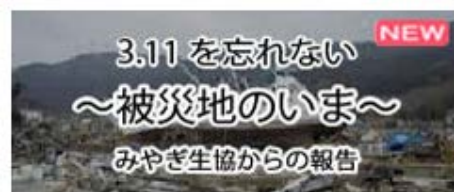
## 2. とちぎ消費者ネットワーク

4月28日、第1回幹事会が開催されました。2015年度の計画について話し合いました。地域連携の強化として多くの団体の加入を呼びかけること、とちぎ消費者カレッジの継続受託、適格消費者団体設立研究会を発足、シンポジウムの協働開催、学習会の実施、県くらし安全安心課との意見交換会実施、宇都宮市消費者団体の一員としての活動、地方消費者グループ・フォーラムへの参加などを決めました。尚、今年度から全体会を取りやめ学習会は更に広く参加を呼びかけるように変更しました。

また、5月1日に県が行うJR宇都宮駅構内での消費者月間啓発チラシ配布の協力と5月15日の消費者シンポジウムに参加を予定しています。

### 震災支援活動

- みやぎ生協から発信される「3.11を忘れない 被災地のいま」をホームページで連続掲載支援しています。現在、第20回「心の回復の格差」をアップしました。



- 東日本大震災、福島第一原発事故避難者支援「お茶会」の取組み

#### ・第42回ふれあいお茶会

開催日時：4月21日（火）午前10時～12時

開催場所：特別養護老人ホームみどりの樹 地域交流室

参加者：避難者12名（内子供1名）・スタッフ17名

スタッフ感想

- ・花手芸「花っていいよね」「きれいだよね」思っていることを言葉にすることで気持ちは落ち着く。ちょっとした何気ない出来事が大きな喜びとなるようだ。
- ・震災前の梨作りの話、忙しい日々を振り返りながら、今は家族で前向きに暮らしているとの話をうかがった。東京大空襲、福島での開拓、様々な思いがよみがえってくるようだ。
- ・6月に埼玉の息子さんの所へ引っ越しご家族、一つの区切りがついたように感じた。
- ・福島へ帰った際、親戚からやつれたんじゃないのと言われた。普段から楽しく過ごしているように見えるが、本音で話し合える人はいないとのことだった。
- ・趣味を持つといいよ、人とコミュニケーションがとれるから、色々やった方がいいよとアドバイスをいただき料理も教えてもらった。
- ・男性の方、避難して数年経ち子供たちは徐々に栃木に慣れてきたようだが、私は栃木に慣れることはない。
- ・桜の映像を見ながら、みなさんどのような想いで見ているのかと自分なりに少し想像できた。多くの方に見てもらいたいと感じた。
- ・復興支援課の方、タブレットの操作をしながら、離れた人たちをつなぐことができればと思った。
- ・お茶会を始めて3年半が経ち、高齢の方は当初と比べ体に変化もみられる。

### ・第36回いわき市四倉仮設住宅お茶会

開催日時：4月4日(土)

開催場所：いわき市四倉仮設住宅集会室

参加者：避難者11名(内子供1名)・スタッフ7名

(内容)

しばらくぶりに参加した方もお元気な様子で、最近の出来事などをおしゃべりしうちとけた様子で、時に笑いあいの楽しい時間を過ごしました。食事は、混ぜご飯、煮物、漬物などをおいしくいただきました。手芸は、思い思いの柄の布地を利用した「ちいさなバック作り」でした。布地の両脇を10箇所ほどはさみで切り、これを結んで袋を作り、市販のバックの持ち手を付けるというもので、ちょっとした小物入れ風の手芸で楽しそうに工作されていました。

男性陣は、被災者の方が60年程前に植樹に携われた富岡町の「夜の森(よのもり)の桜並木」を訪ねました。「夜の森の桜」は見事な桜並木で、写真撮影を行なう方も、「懐かしい」と桜や町並みをご覧になっている方も何人かいました。夜ノ森地区は、福島第一原発の所在する大熊町の南に位置する富岡町の「帰還困難区域」と「居住制限区域」の間に位置し、途中の街中には人の気配は無く、いたるところで「除染作業中」の旗の付近で除染作業が行なわれていました。除染で出た廃棄物を入れる黒い大型のバックが、家の庭や、学校の校庭などに置かれ、途中、数百個以上とみられる集積場所も何箇所か見られました。何箇所か設置されているモニタリングポストでは「6.0マイクロシーベルト」以上の表示もありました。

以上